

かまがやしだいにじたぶんかきょうせいすいしんけいかく  
**鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画**

へいせい      ねんど      へいせい      ねんど  
**(平成27年度～平成32年度)**

あん  
**(案)**



へいせい      ねん      がつ  
**平成27年 月**

かまがやし      きかくざいせいか  
**鎌ヶ谷市 企画財政課**

## もくじ

- 1 し と ま かんきょう 市を取り巻く環境と鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画策定の背景かまがやしだいにじたぶんかきょうせいすいしんけいかくさくてい はいけい . . . . . P1
- 2 かまがやし たぶんかきょうせい げんじょう かだい 鎌ヶ谷市における多文化共生の現状と課題 . . . . . P2
- 3 かまがやしたぶんかきょうせいすいしんけいかく もくてき おも せいか 鎌ヶ谷市多文化共生推進計画の目的と主な成果 . . . . . P5
- 4 けいかく いち きほんてきかんが かた 計画の位置づけと基本的考え方 . . . . . P8
- 5 けいかく たいけい すいしんたいせい 計画の体系と推進体制 . . . . . P9
- 6 たぶんかきょうせいしゃかい こくさいか ふく すいしん あんけーと およ がいこくじん 「多文化共生社会（国際化を含む）の推進のためのアンケート」及び「外国人  
じゅうみんこんわかい けっかがいよう  
住民懇話会」結果概要 . . . . . P23
- 7 さんこうしりょう 参考資料 . . . . . P27

# 1 市を取り巻く環境と鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画策定の背景

鎌ヶ谷市は平成22年度に成田スカイアクセスが開通したことから、国際的な広域交流拠点としての機能が拡充しています。また、本市を取り巻く環境は、都心と国際空港の中間点という立地、平成32年度には東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定したことなどを踏まえると、今後、さらに多くの外国人の方が市に訪れることが想定されます。

本市が目指す多文化共生については、近年、政治・経済・情報の各分野や人的交流において急速な勢いでグローバル化が進展するなか、市民を中心とした国際交流の活性化を図るとともに、生活者としての外国人住民の方が暮らしやすい環境を整えていくことが必要となってきます。

したがって、外国人の方が増えていくなかで、お互いの文化を理解し合い、共に地域の一員として生活できる「多文化共生社会」の実現に向けた取り組みを積極的に進めていく必要があります。

このようなことから、鎌ヶ谷市多文化共生推進計画に基づきこれまで取り組んできた姉妹都市交流・国際交流の施策をさらに前進させ、多文化共生の社会づくりに取り組むことが重要な政策課題となります。そこで、現状分析を踏まえた施策の方針及び将来目標を体系化した、「鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画」を策定するものです。

## 2 鎌ヶ谷市における多文化共生の現状と課題

鎌ヶ谷市においては、平成25年12月時点に外国人住民登録を行っている市民が1,144名おり（次ページ参照）、全市民のおよそ1%を占めています（平成25年12月31日現在）。内訳を見ると、フィリピン、韓国、中国からの住民が半数以上を占め、次いでタイ、ペルー、米国の順となっています。登録人口は平成16年度の931人から、平成22年度の1,233人まで、増加傾向にあり、特にフィリピン・中国出身者の増加が目立ちます。平成23年度と平成24年度は減少に転じていますが、平成25年度には再び増加に転じています。

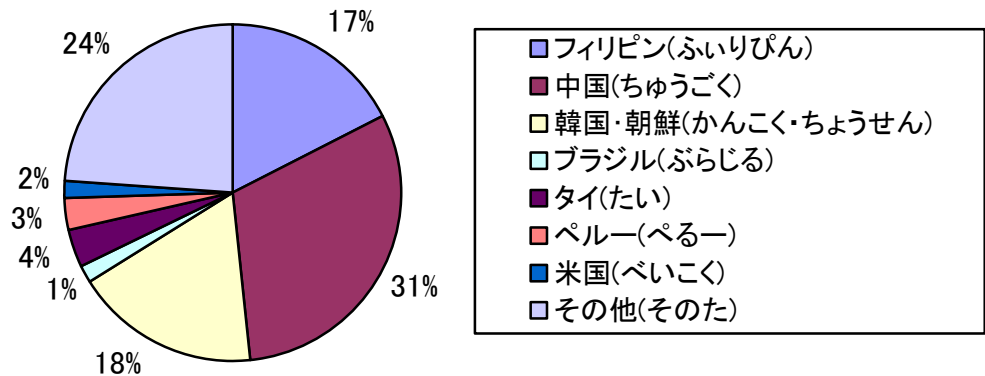
今後については、成田スカイアクセスが開通したことにより、新鎌ヶ谷駅から成田空港や羽田空港までの交通アクセスの利便性が良くなったことから、新鎌ヶ谷駅周辺や鎌ヶ谷市への外国人訪問者及び居住者がさらに増加することが予想されます。

がいこくじんじゅうみん すいい  
外国人住民の推移

国名	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
フィリピン	210	228	228	244	253	258	258	236	214	199
中国	152	178	207	241	264	292	305	316	296	355
韓国・朝鮮	225	209	197	200	218	216	220	220	206	203
ブラジル	47	59	71	77	71	52	46	43	22	17
タイ	43	46	48	48	48	41	45	49	41	42
ペルー	36	43	44	45	44	51	39	38	37	35
米国	18	20	23	21	26	28	28	29	23	21
その他	200	214	207	233	281	295	292	254	227	272
統計	931	997	1,025	1,109	1,205	1,233	1,233	1,185	1,066	1,144

さんしょう とうけい へいせい ねんぼん たんに にん  
(参照：統計かまがや 平成25年版) (単位：人)

かまがやし がいこくじんとうろくしゃじんこう  
鎌ヶ谷市の外国人登録者人口 (H25)





### 3 鎌ヶ谷市多文化共生推進計画の目的と主な成果

本市における外国人登録者数は、平成14年度から平成19年度の5年間に  
かけて902人から1,109人へと10%以上増加し、市の国際化は急速に  
すすんでいました。

そのような中、鎌ヶ谷市多文化共生推進計画（以下、「前計画」という。）は、  
「国籍にとらわれず、日本人も外国人もお互いの文化を認め合い、共に地域の  
一員として生活することができる」多文化共生の社会づくりに取り組むことで、  
外国人住民が暮らしやすい環境を整えていくことを目的に策定されました。

前計画の主な成果としては、計画の体系に基づき、大きく4点あります。

1点目は、「交流のきっかけづくり」です。具体的には、地域における草の根  
交流・姉妹都市交流などの「市民交流の推進」、国際交流団体に対する各種  
支援や鎌ヶ谷市多文化共生推進連絡協議会の設立などの「ネットワークの  
構築」を図りました。

2点目は、「国際化の意識づくり」です。具体的には、平和・教育関連事業  
や普及イベントの開催などの「啓発の推進」、外国人住民の方への学習の機会  
の提供や留学生の受け入れ環境の充実などの「教育・生涯学習の推進」  
に努めました。

3点目は、「暮らしやすい環境づくり」です。具体的には、各種相談業務の  
充実のため、プロジェクトマネージャーの設置などの「行政サービスの充実」

や「国際交流イベントの参加者等に対するアンケート調査やヒアリングの  
実施」などにより、情報収集に取り組みました。

4点目は、「体制の整備」です。具体的には、平成26年4月20日にきらり  
ホールで実施した「ワールドフェスタin鎌ヶ谷」など、鎌ヶ谷市多文化共生推進  
連絡協議会との協働事業の実施に取り組み、鎌ヶ谷市多文化共生推進  
センターの設置などの多文化共生のための拠点を整備しました。

今後については、平成26年4月に開設した「鎌ヶ谷市多文化共生推進  
センター」を拠点として、様々な施策を展開していきます。



たぶんかきょうせいすいしんせんたー  
☆多文化共生推進センターとは？

こくせき にほんじん がいこくじん たが ぶんか みと あ とも  
国籍にとらわれず、日本人も外国人もお互いの文化を認め合い、共に  
ちいき いちいん せいかつ たぶんかきょうせいしゃかい じつげん  
地域の一員として生活することができる多文化共生社会を実現する  
し きよてんしせつ ほんけいかく きかんない がいこくじんじゅうみん かた  
ための市の拠点施設です。本計画の期間内では、外国人住民の方へ  
せいかつじょうほう ていきょう しみんだんたい かつどう しえん し たぶんか  
の生活情報の提供や市民団体の活動を支援することで、市の多文化  
きょうせい むす じぎょう てんかい いべんととう じっし  
共生に結びつく事業を展開していきます。また、イベント等を実施す  
るにあたり、たぶんかきょうせいすいしんれんらくきょうぎかい きょうどうじぎょう けんとう  
多文化共生推進連絡協議会との協働事業も検討して  
いきます。

たぶんかきょうせいすいしんれんらくきょうぎかい  
☆多文化共生推進連絡協議会とは？

し たぶんかきょうせい こくさいか すいしん だんたい そしき  
市の多文化共生や国際化を推進する団体により組織されており、  
かくだんたい じしゆてき かくしゆごがくこうざ こうりゅういべんと こくさいこうけんじぎょう  
各団体では、自主的に各種語学講座や交流イベント、国際貢献事業  
おこな ほんけいかく きかんない ちいき くさ ねこうりゅう  
などを行っています。本計画の期間内では、地域における草の根交流  
ほらんていあ いくせい とお し たぶんかきょうせい むす じぎょう  
やボランティアの育成などを通して、市の多文化共生に結びつく事業  
てんかい いべんととう じっし たぶんか  
を展開していきます。また、イベント等を実施するにあたり、多文化  
きょうせいすいしんせんたー きょうどうじぎょう けんとう  
共生推進センターとの協働事業も検討していきます。

## 4 計画の位置づけと基本的考え方

かまがやし かまがやしそごうきほんけいかくこうききほんけいかく せかい むす  
鎌ヶ谷市では鎌ヶ谷市総合基本計画後期基本計画において、「世界と結びつ

こくさいか そくしん じつげん こくさいこうりゅう  
く国際化の促進」を実現するため、「国際交流のきっかけづくりや国際化の

いしき がいこくじん く かんきょう きほんじぎょう かか  
意識づくり」、「外国人にも暮らしやすい環境づくり」を基本事業として掲げて

います。

### ○ 計画の位置づけと期間

かまがやしだいにじたぶんかきょうせいしんけいかく ぜんけいかく どうよう きほんこうそう きほん  
「鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画」は、前計画と同様に、基本構想の基本

りねん にんげんそんちょう しみんせいかつゆうせん もと そごうきほんけいかく ぶんやべつけいかく  
理念「人間尊重・市民生活優先」に基づく総合基本計画の分野別計画として

いち けいかくきかん へいせい ねんど ねんど しょねんど へいせい  
位置づけます。計画期間は平成27年度（2015年度）を初年度とし、平成32

ねんど ねんど ねんかん ちゅうかんねん へいせい ねんど  
年度（2020年度）までの6年間とします。なお、中間年となる平成29年度

(2017年度)には、後期基本計画や社会の変化に合わせた計画の見直しが

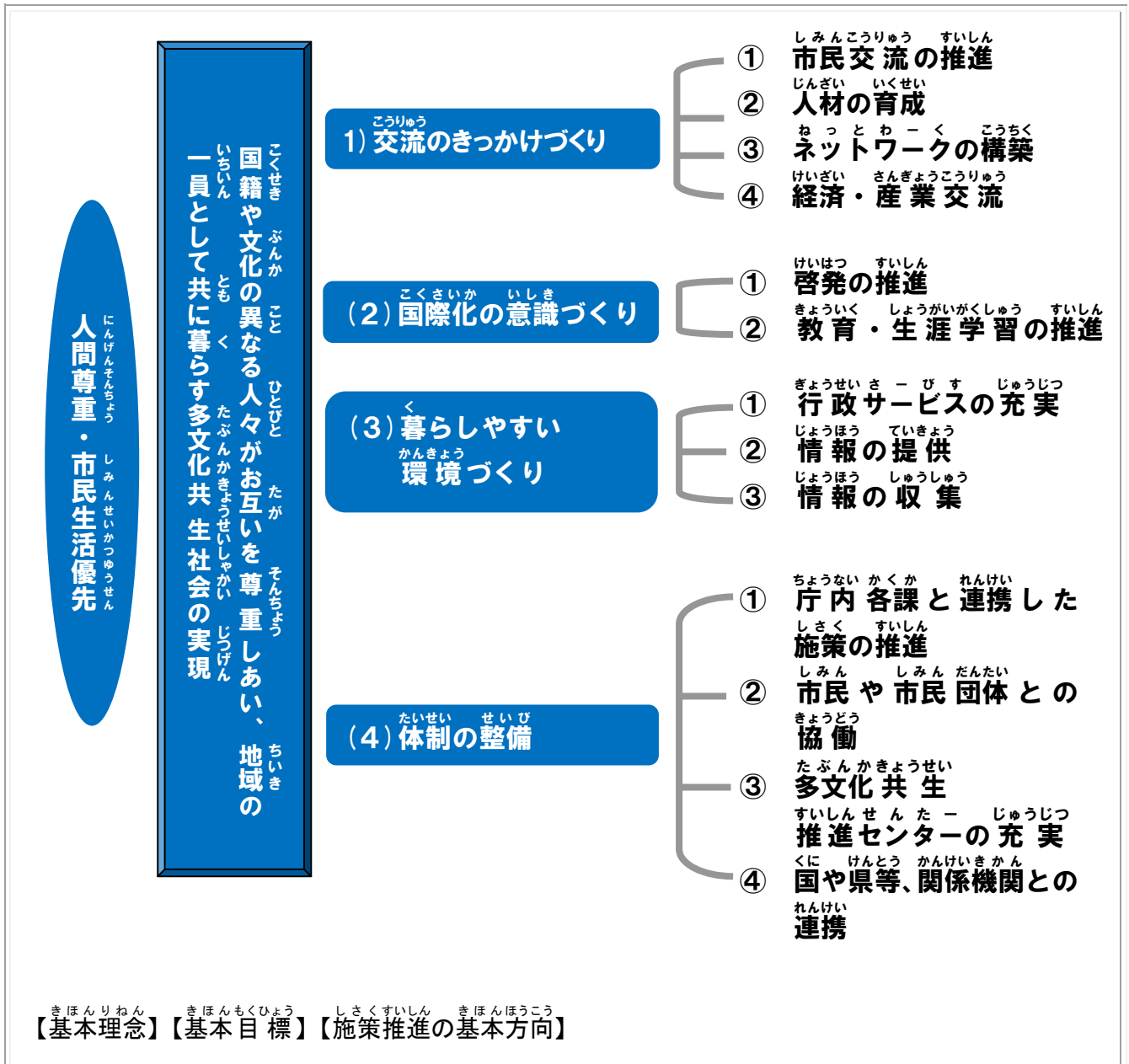
ひつよう けんしょう おこな  
必要か検証を行います。

ねんど 年度	へいせい 平成27 (2015)	へいせい 平成28 (2016)	へいせい 平成29 (2017)	へいせい 平成30 (2018)	へいせい 平成31 (2019)	へいせい 平成32 (2020)
だいにじたぶんか 第二次多文化 きょうせいしんけいかく 共生推進計画			みなお <u>見直しの</u> ひつよう <u>必要性を</u> けんしょう <u>検証</u>			
きほんこうそう 基本構想						
こうききほんけいかく 後期基本計画						

### ■ 鎌ヶ谷市総合基本計画後期基本計画に掲げられた施策のねらい（めざす姿）

- 市民による国際交流が盛んに行われています。
- 国際平和の意識が高く、様々な分野で国際化への対応が行われています。
- 外国人にも暮らしやすい鎌ヶ谷市になっています。

5 けいかく たいけい すいしんたいせい  
計画の体系と推進体制

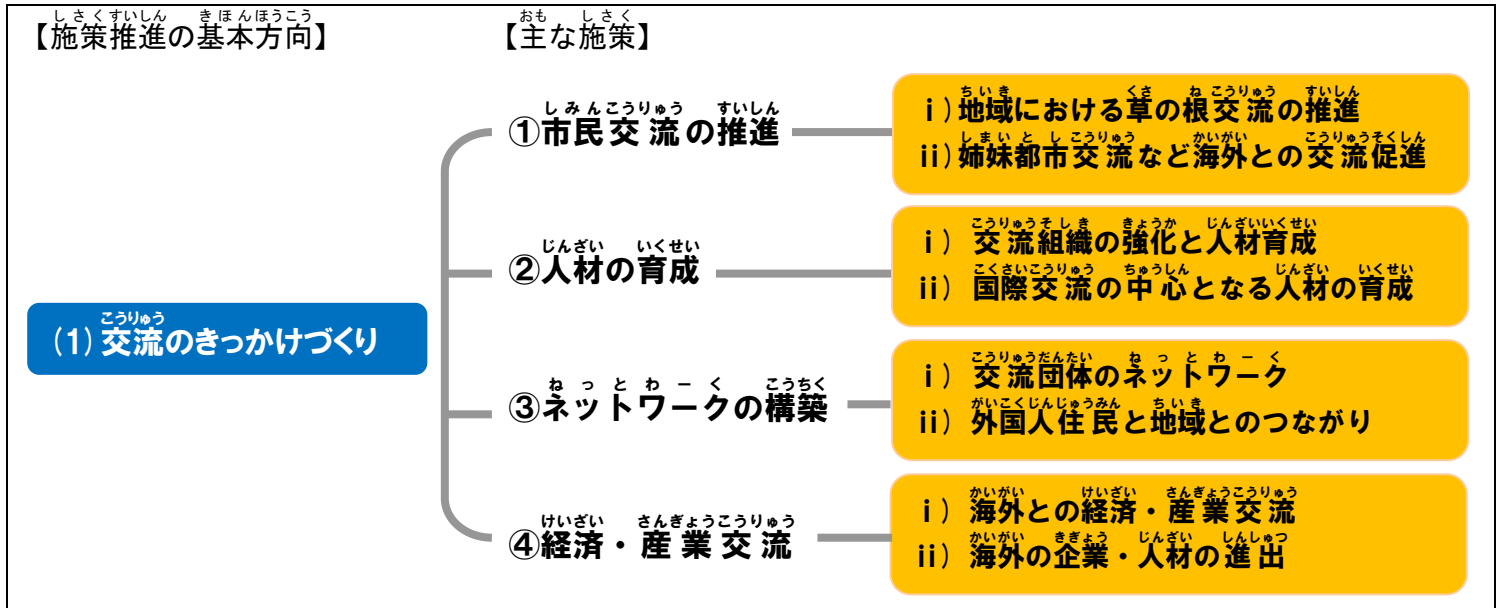


かまがやしだいにじたぶんかきょうせいすいしんけいかく  
「鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画」は、ぜんけいかく とうよう かまがやし  
ちづくりの基本理念とされる「人間尊重・市民生活優先」を多文化共生の分野  
でも実現するため、「国籍や文化の異なる人々がお互いを尊重しあい、地域の  
一員として共に暮らす多文化共生社会の実現」を基本目標として魅力ある

ちいきしゃかい めざ しみん ちゅうしん こうりゅう そくしん こくさいか いしき  
地域社会づくりを目指し、市民が中心の交流の促進や国際化の意識づくり、

がいこくじんじゅうみん かた く かんきょう しさくすいしん きほんほうこう  
そして外国人住民の方が暮らしやすい環境づくりなどを施策推進の基本方向

けいかく さくてい  
として計画を策定していきます。



① 市民交流の推進

i) 地域における草の根交流の推進

かまがやし にほんじんじゅうみん がいこくじんじゅうみん しゅたいてき こうりゅう ふか  
鎌ヶ谷市における日本人住民と外国人住民が主体的に交流を深め、

たが ぶんか たい りかい そくしん たぶんかきょうせいすいしんれんらくきょうぎかい  
お互いの文化に対する理解を促進するため、多文化共生推進連絡協議会と

れんけい ぶんか げいじゆつ すぽーつ つう こくさいこうりゅうかつどう しえん  
連携し、文化・芸術・スポーツなどを通じた国際交流活動を支援します。

施策メニュー（例）

- 多文化共生推進連絡協議会加盟団体の主催事業による日本文化の体験事業や在住外国人との交流イベント
- 学校におけるスポーツ交流・在住外国人が主催するお祭り等の交流イベント
- 海外から来た訪問者や転居してきた外国人住民のためのホームビジット など

## ii) 姉妹都市交流など海外との交流促進

姉妹都市ワカタネとの交流を中心とする海外との交流事業に、より多く

の市民が参加できるような工夫をしていきます。また、平成29年度は姉妹都市

提携20周年となるため、姉妹都市間の交流をさらに深めるための事業を実施  
します。

### 施策メニュー（例）

- ワカタネの学生の受け入れにあたってのホストファミリー募集・登録
- ワカタネ市民との交流イベントへの市民交流の呼びかけ
- 学校を通じた交流や手紙・メール・ビデオレターの交換
- インターネット・SNSを活用した交流
- ワカタネを紹介するイベントの開催 など

成果指標（例）：ホストファミリー登録者数、ワカタネを知っている市民の割合、  
交流イベント参加人数、交流イベント開催数

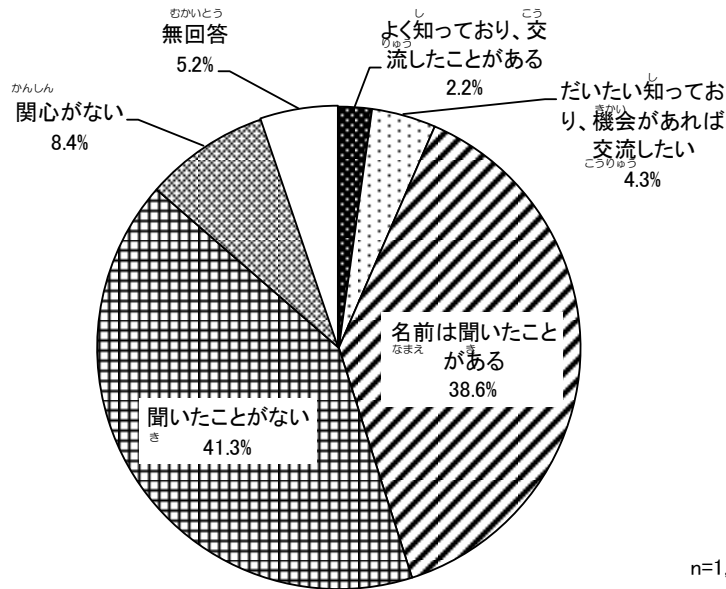
### 参考（H25年度市民意識調査）

☆姉妹都市（ニュージーランド・ワカタネ地区）の認知度

◇姉妹都市（ニュージーランド・ワカタネ地区）の認知度は「知っている」と「聞いたこと

がある」を合わせて4割台半ば

あなたは、鎌ヶ谷市の姉妹都市（ニュージーランド・ワカタネ地区）について、どの程度  
知っていますか。



□全体の傾向

姉妹都市（ニュージーランド・ワカタネ地区）の認知度は「聞いたことがない」が41.3%で最も高くなっています。次いで、「名前が聞いたことがある」（38.6%）、「関心がない」（8.4%）と続いています。

## ② 人材の育成

### i) 市民交流の組織の強化と人材育成

多文化共生の推進体制を確立するため、市民交流の組織の強化やそ

れを担う人材の育成に努めます。

#### 施策メニュー（例）

- 多文化共生推進連絡協議会に対する各種支援
- ボランティアの育成、研修事業の実施 など

## ii) 国際交流の中心となる人材の育成

国際社会で活躍できる人材を育てるため、外国人による外国語教育や、子どもたちが海外の文化に親しめる機会の充実に努めます。

### 施策メニュー（例）

- ALT（外国人指導助手）による英語教育、JETプログラムのCIR（国際交流員）の活用
- 学校や生涯学習の場における国際交流活動の実施 など

成果指標（例）：多文化共生推進連絡協議会登録団体数、ボランティア登録人数

## ③ ネットワークの構築

### i) 交流団体のネットワーク

各種関係団体が協力してより効果的に交流が育まれるよう、近隣市の団体も含めた団体同士のネットワークづくりを促進します。

### 施策メニュー（例）

- 多文化共生推進連絡協議会の事業・イベントにおける他の国際団体との連携
- 市内で活動する国際関連団体の近隣市の団体も含めたネットワーク化の仕組みづくり など

### ii) 外国人住民と地域とのつながり

外国人住民の方が地域との関わりを深め、日常生活や災害時などのいざというときにお互い助けあえるよう、地域の様々な活動に参加できるきっかけづくりを進めます。



しさをくめにゆーれい  
施策メニュー（例）

- がいこくじんじゅうみん じちかいかにゆう そくしん  
外国人住民の自治会加入の促進
- ちいき かいさい いべんとじょうほう ひょうき そくしん  
地域で開催するイベント情報へのふりがな表記の促進
- ちいき ぼうさい かんきょうかつどうとう きんかそくしん  
地域の防災・環境活動等への参加促進 など

せいかしひょう れい がいこくじんじゅうみん じちかいかにゆうりつ かくしゆかんけいだんたい ていけい いべんと  
成果指標（例）：外国人住民の自治会加入率、各種関係団体が提携したイベントの  
かいさいすう ちいき かつどう さんか けいけん がいこくじんじゅうみん わりあい  
開催数、地域の活動に参加した経験のある外国人住民の割合

④ けいざい さんぎょうこうりゅう  
④ 経済・産業交流

かいがい けいざい さんぎょうこうりゅう  
i) 海外との経済・産業交流

しまいとしわかたね かいがい けいざい さんぎょうこうりゅう ちいきしゃかい  
姉妹都市ワカタネをはじめ、海外との経済・産業交流による地域社会

かっせいか すいしん  
の活性化を推進します。

しさをくめにゆーれい  
施策メニュー（例）

- わかたね こうりゅう きかい たが じもとさんびん しょうかい はんばい  
ワカタネとの交流の機会におけるお互いの地元産品の紹介・販売
- かんこう きょういくとう じんてきこうりゅう つう ちいきけいざい かっせいか  
観光や教育等をはじめとする人的交流を通じた地域経済の活性化
- かまがやし とくさんびん しょうかい たげんごばんばんふれっと さくせい  
鎌ヶ谷市の特産品を紹介する多言語版パンフレットの作成 など

かいがい きぎょう じんざい しんしゆつ  
ii) 海外の企業・人材の進出

なりたくこう としん むす ちゅうかんちてん ちいきせい い しみん おとす  
成田空港と都心を結ぶ中間地点という地域性を生かして、市民や訪れ

ひとびと ちいき みりよく たか しせつ かんきょう せいび つう しょうらいてき  
る人々にとって地域の魅力が高まる施設や環境の整備を通じ、将来的

かいがい きぎょう じんざい しんしゆつ ほうさく  
に海外の企業や人材の進出につながるようなまちづくりの方策を

けんとう  
検討します。



しさをくめ にゆー れい  
施策メニュー（例）

- 鎌ヶ谷市観光ビジョンにおけるインバウンドの推進
- 成田空港・都心間の中間地点である新鎌ヶ谷地区を中心とする集客力の向上
- 交流・レジャー施設の建設
- IT産業など、各分野で活躍する海外の人材の発掘
- 新鎌ヶ谷地区を訪れる外国人向けのPRパンフレットの作成
- 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた各種取り組み など

せいかしひょう れい かまがやし おとす がいこくじんりょこうしゃすう  
成果指標（例）：鎌ヶ谷市を訪れる外国人旅行者数

しさをくすいしん きほんほうこう  
【施策推進の基本方向】

おも しさをく  
【主な施策】

こくさいか いしき  
(2) 国際化の意識づくり

① 啓発の推進

② 教育・生涯学習の推進

i) 平和への取組

ii) 人権尊重の意識づくりの推進

i) 多文化共生に関する教育の充実

ii) 外国人住民への学習の機会の提供

iii) 留学生の受け入れ環境の充実

① 啓発の推進

i) 平和への取組

ひかくへいわとしせんげん りねん ぶん しみん へいわうんどう  
非核平和都市宣言の理念を踏まえて、市民によるさまざまな平和運動を

しえん こうきゅうへいわ む とく すす しみん せんそう  
支援し、恒久平和に向けた取り組みを進めます。また、市民による戦争

たいけん けいしょう こうえんかい びでお じょうえい かいさい せかい ひとびと  
体験の継承、講演会、ビデオの上映などの開催や世界の人々との

こうりゅう つう ひろく へいわ たい いしき じょうせい ふきゅう けいはつ すす しみん  
交流を通じ、広く平和に対する意識の醸成、普及、啓発を進め、市民に

こうきゅうへいわ じつげん つと  
よる恒久平和の実現に努めます。

しさをくめにゆーれい  
施策メニュー（例）

- しゅうせんきねんびとう へいわかんれんじぎょう ふきゅういべんと かいさい  
・ 終戦記念日等における平和関連事業や普及イベントの開催
- かいがい ふんそう へいわうんどう せんそうたいけん てーま がくしゅう かいせい せつてい  
・ 海外の紛争や平和運動、戦争体験をテーマとする学習の機会の設定 など

じんけんそんちょう いしき すいしん  
ii) 人権尊重の意識づくりの推進

がいこくじんじゅうみん ざんりゅうほうじん かたがた じんけん さまざま かいせい つう  
外国人住民や残留邦人の方々の人権につき、様々な機会を通じて

じんけんそんちょう ふきゅう けいはつ すいしん  
人権尊重の普及・啓発を推進します。

しさをくめにゆーれい  
施策メニュー（例）

- じんけんけいはつかんれんじぎょう かいさい  
・ 人権啓発関連事業の開催 など

せいかしひょう れい へいわ とく もくてき じぎょう かいさいかいすう じんけんけいはつかんれん  
成果指標（例）：平和への取り組みを目的とする事業の開催回数、人権啓発関連  
じぎょう かいさいかいすう  
事業の開催回数

きょういく しょうがいがくしゅう すいしん  
② 教育・生涯学習の推進

たぶんかきょうせい かん きょういく じゅうじつ  
i) 多文化共生に関する教育の充実

こ せいしょうねん ひろ しみん たいしょう たぶんかきょうせい がくしゅう  
子どもや青少年など広く市民を対象に、多文化共生についての学習

かいせい もう たぶんかきょうせい いしき そだ つうやくほらんていあ  
の機会を設け、多文化共生の意識を育てます。また、通訳ボランティアが

こうかてき じぎょうてんかい はか ほらんていあようせいこうざ  
より効果的な事業展開を図れるようにするため、ボランティア養成講座を

じっし  
実施します。

しさをくめにゆーれい  
施策メニュー（例）

- がっこう そうごうがくしゅうとう つう たぶんかきょうせい がくしゅう かいせい  
・ 学校の総合学習等を通じた多文化共生の学習の機会づくり
- たぶんかきょうせい てーま しょうがいがくしゅうこうざ こうえんかい かいさい  
・ 多文化共生をテーマとした生涯学習講座や講演会の開催
- つうやくほらんていあむ ほらんていあようせいこうざ じっし  
・ 通訳ボランティア向けのボランティア養成講座の実施 など

## ii) 外国人住民への学習の機会の提供

外国人住民の方や帰国した子どもたちが安心して暮らし、学べるよう、

多文化共生推進連絡協議会などの協力のもとに語学ボランティアの派遣、

日本語や生活習慣を学ぶ機会の提供、学校教員への語学研修など

の充実を図ります。

### 施策メニュー（例）

- 学習の支援を必要とする生徒のための語学ボランティアの派遣
- 日本語教室や日本の生活習慣を学ぶ講座の開催
- 多文化共生推進センターにおけるミーティングスペース・パソコンの貸し出し、閲覧用図書書の充実
- 図書館における外国語資料の選定・収集
- 相互学習の場(日本語を学びたい外国人と外国語を学びたい日本人が互いに教えあう場所)の設置
- 学校教員に対する語学研修の機会の創設 など

## iii) 留学生の受け入れ環境の充実

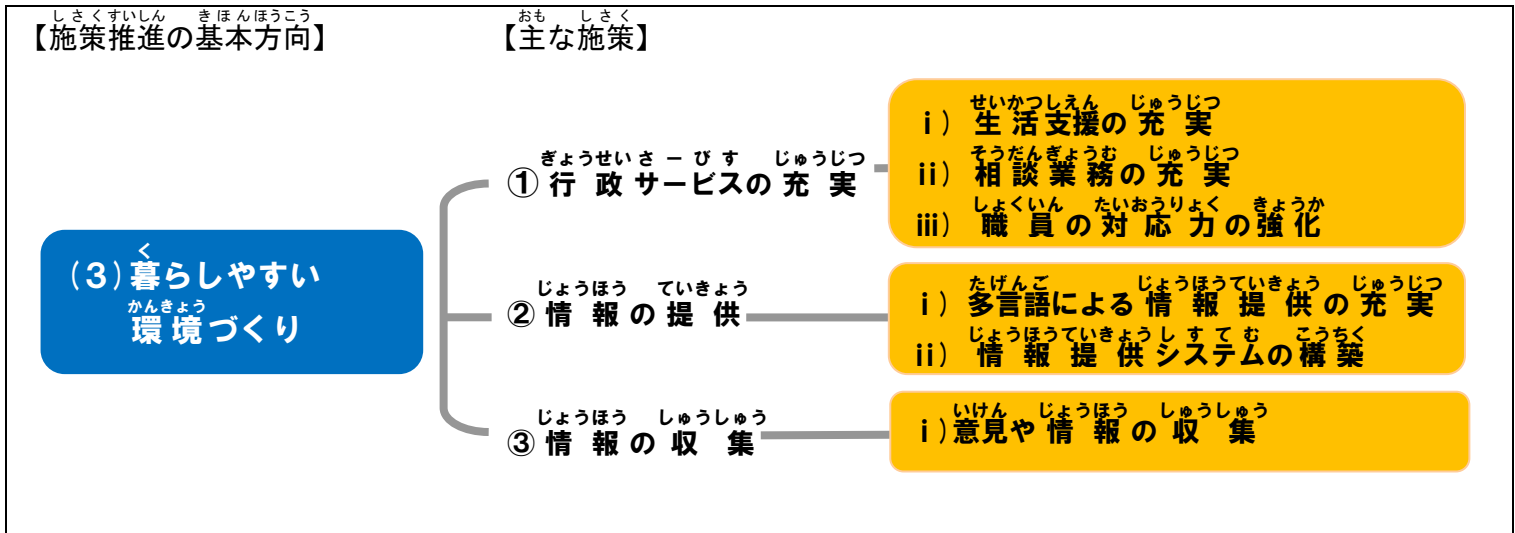
留学生が安心して生活できるよう、関係機関や関係団体と連携して、

受入環境の充実に努めます。

### 施策メニュー（例）

- ワカタネや諸外国の留学生の受入支援
- 警察による防犯出前講座の開催 など

成果指標（例）：多文化共生をテーマとした学習の機会の回数



① 行政サービスの充実  
ぎょうせいさーびす じゅうじつ

i) 生活支援の充実  
せいかつしえん じゅうじつ

子育てや医療・福祉など、生活に密接した分野において外国人住民の方  
が利用しやすい体制の構築に努めます。

施策メニュー（例）  
しさをくめにゆーれい

- 外国人住民の親子が参加しやすい子育てのための活動やイベントの実施  
がいこくじんじゅうみん おやこさんか こそだ かつどう いべんと じっし
- 外国人住民の方に配慮した医療・福祉等の行政サービスのあり方の検討 など  
がいこくじんじゅうみん かた はいりよ いりょう ふくしとう きょうせいさーびす かた けんとう など

ii) 相談業務の充実  
そうだんぎょうむ じゅうじつ

国際交流通訳や通訳ボランティアとの連携のもと、外国人住民の方  
から受ける相談の対応方法や、窓口等における通訳体制の整備を行います。

施策メニュー（例）  
しさをくめにゆーれい

- 多文化共生推進センターにおける通訳ボランティアの利用普及  
たぶんかきょうせいしんせんたー つうやくほらんていあ りょうふきゅう
- 外部機関の相談窓口の紹介を行う体制の充実、外国人相談窓口の設置 など  
がいふきかん そうだんまどぐち しょうかい おこな たいせい じゅうじつ そうだんまどぐち せっち など

### iii) 職員の対応力の強化

職員の語学力や知識の向上を通して、外国人市民への対応が円滑となるように図ります。

#### 施策メニュー（例）

- 職員への語学力向上に対する支援
- 外国人住民対応力の向上に関する研修
- 職員の問題意識の向上

成果指標（例）：多文化共生推進センターにおける通訳業務の件数、多文化共生に関する職員対象の啓発・研修回数

## ② 情報の提供

### i) 多言語による情報提供の充実

市が外国人住民を含む市民を対象に作成する資料において、外国人

の方にもわかりやすい、やさしい日本語やルビつき日本語、多言語化の促進

を図ります。また、道路、公共施設、行政案内板等における外国語併記

を積極的に進め、理解しやすい情報提供の工夫にも努めます。

#### 施策メニュー（例）

- 多文化共生推進センターや公共施設等における外国人住民向け資料（ウェルカムバック）の配布
- 広報・生活ガイド、防災・防犯、子育て、税金、保険・年金、就職、ゴミ出し等、各種行政情報の翻訳（またはルビつき日本語）など

## ii) 情報提供システムの構築

インターネットや市内の公共施設などを介して、外国人住民が手軽に必要な情報を得ることができるような仕組みを構築します。また、ホームページにおける多言語自動翻訳サービスを行うとともに、SNS等の発信時においても、多言語による発信を進めます。さらに、多文化共生推進センターのホームページの充実も図ります。

### 施策メニュー（例）

- 駅やスーパーマーケット等、人が集まる場所での情報提供の推進
- ホームページにおける多言語自動翻訳サービスの提供
- SNSの多言語発信の推進
- 多文化共生推進センターホームページの充実 など

成果指標（例）：翻訳した行政資料の数、生活ガイドブックの配付数、SNSの多言語発信回数

## ③ 情報の収集

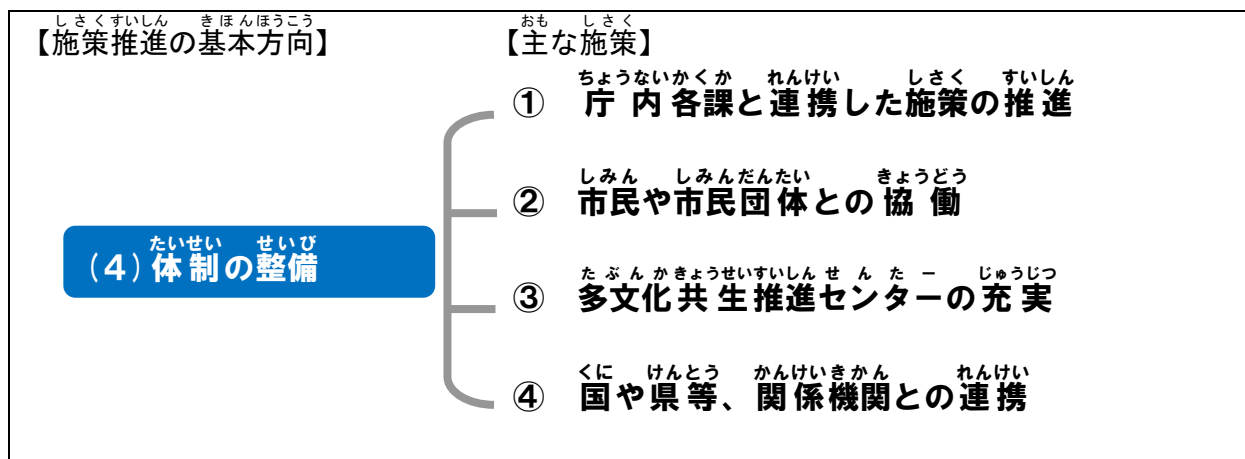
### i) 意見や情報の収集

外国人住民や日本人の市民のニーズを把握し、より効果的な施策の展開が図れるよう、ヒアリングやメール、SNSの活用など、様々な手段を通じて多文化共生に関する市民の意見や情報を収集する仕組みを作ります。

### 施策メニュー（例）

- ホームページや多言語版市長への手紙を活用した外国人住民意見の収集
- イベント参加者等に対するアンケート調査やヒアリングの実施 など

せいかしひょう れい ほーむ ペーじ しちよう てがみ と あ けんすう  
成果指標（例）：ホームページや市長への手紙による問い合わせ件数



① ちょうないかくか れんけい しさく すいしん  
庁内各課と連携した施策の推進

たぶんかきょうせいしさく すいしん かんけいぶきょくかん れんらく ちょうせい けいぞくてき  
多文化共生施策の推進のため、関係部局間の連絡・調整を継続的に

おこな へいせい ねんど とうきょうおりんぴっく ばらりんぴっく  
行います。また、平成32年度には東京オリンピック・パラリンピックの

かいさい よてい ちょうないかくか れんけい たぶんかきょうせい つな  
開催が予定されていることから、庁内各課と連携した多文化共生に繋がる

じぎょう じっし  
事業を実施していきます。

② しみん しみんだんたい きょうどう  
市民や市民団体との協働

たぶんかきょうせいしさく こうかてき じつげん しみん たぶんかきょうせいすいしん  
多文化共生施策をより効果的に実現させるため、市民や多文化共生推進

れんらくきょうぎかいとう しみんだんたい し きょうどう と く ひつよう  
連絡協議会等の市民団体と市が協働して取り組む必要があります。また、

くたいてき とりくみ すいしん じちかい きょういくかんけい たぶんかきょうせいかんけいだんたい  
具体的に取組を推進するため、自治会や教育関係、多文化共生関係団体など、

さまざま しゅたい いけん ば たぶんかきょうせいすいしんかいぎ せっち  
様々な主体からご意見をいただく場として、多文化共生推進会議を設置しま  
す。



③ 多文化共生推進センターの充実

多文化共生社会を実現するための拠点施設となる多文化共生推進センター

を、市内外から訪れる外国人や市民の方にとって魅力的な施設にしていきます。

④ 国や県等、関係機関との連携

国や県、他の自治体などとの連携を図り、鎌ヶ谷市だけでは対応困難な

課題や広域的な課題（例：防災・防犯関連施策、多言語情報の提供、

専門的な相談業務等）を解決するための体制を整えます。また、特区等

の活用についても、積極的に検討します。

成果指標(例): 市内において連携した業務件数、多文化共生に関する事業の市民  
団体との共催回数、多文化共生推進会議の開催回数、国や県との連携業務件数



## 6 「多文化共生社会（国際化を含む）の推進のためのアンケート」

### および「外国人住民懇話会」結果概要

#### (1) 多文化共生社会（国際化を含む）の推進のためのアンケート

平成25年度に実施した「多文化共生社会（国際化を含む）の推進のための

アンケート」結果（以下、「アンケート調査」という。）からは、主に以下のよ

うな課題が整理されます。

#### ① 交流のきっかけづくり

アンケート調査では、「近所に住んでいる日本人や外国人とどのような

交流がしたいですか。」という質問に、「もっと親しく付き合いたい」と答

えた人が約40%、「日本の文化や習慣を教えてください」と答えた人

が約30%、「ボランティア活動に参加したい」と答えた人が約20%とな

っており、地域活動等への参加を促進する仕組みづくりが必要となります。

⇒ 市民交流の推進やネットワークの構築など、交流のきっかけづくりを進めます。

#### ② 国際化の意識づくり

アンケート調査では、「生活をするうえで、どのような不安・不便を感じて

いますか。」という質問に、「子どもの教育」と答えた人が約30%とな

っており、「子どもの教育にあたって、どのようなことが心配ですか。」

という質問には、「進学や進路のこと」・「母国の言葉や文化を教えられな

いと答えた人が約60%、「友人との関係」と答えた人が約50%とな  
っており、多文化共生社会づくりに向けた教育の充実を推進する必要  
があります。

⇒ 教育・生涯学習の機会を充実させ、国際化の意識づくりを進めます。

### ③暮らしやすい環境づくり

○アンケート調査では、「生活をするうえで、どのような不安・不便を感じて  
いますか。」という質問に、「乳幼児の子育て」と答えた人が約15%と  
なっており、「乳幼児の子育てにあたって、どのようなことに不安や不便を  
感じていますか。」という質問には、「保育園や幼稚園の入園のこと」と答  
えた人が約60%、「子どもの遊び場が無い」と答えた人が約50%となっ  
ており、子育て世代に暮らしやすい環境づくりが必要となります。

○アンケート調査では、「生活をするうえで、どのような情報が必要だと思  
いますか。」という質問に、「保険や年金に関する情報」・「避難所など災害  
対策についての情報」と答えた人が約40%、「病気や事故のときの  
連絡先や対処に関する情報」と答えた人が約35%となっており、生活に根  
ざした情報提供を望む声が強くなっています。

○アンケート調査では、「市からの情報をどのように提供してもらいたいですか。」という質問に、「広報紙」と答えた人が約45%、「多言語版ホームページ」と答えた人が約30%、「駅やスーパーマーケットなど、人が集まる場所での情報提供」と答えた人が約30%となっており、従来の行政サービスに関する情報提供の周知を徹底する必要があります。

⇒ 行政サービスの充実や情報の提供・収集を充実させ、暮らしやすい環境づくりを進めます。

#### ④体制の整備

○アンケート調査では、「生活のうえで、市にどのようなことをしてほしいですか。」という質問に、「生活全般を含めて相談できる所を作ってもらいたい」と答えた人が約45%、「語学力を活かせる仕事を紹介してもらいたい」と答えた人が約40%となっており、相談場所の提供と仕事の紹介を望む声が強くなっています。

○アンケート調査では、「地震など災害に備えて普段から準備をしていますか。」という質問に、「特に何もしていない」と答えた人が約45%、「自分の住む地域の避難所を確認している」と答えた人が約25%となっており、緊急時における備えが急務となっています。

⇒ 鎌ヶ谷市多文化共生推進センターを、市の多文化共生社会を実現するための拠点施設として位置づけ、体制の整備を進めます。

## (2) 外国人住民懇話会

平成26年度に「外国人住民懇話会」を2回実施し、4か国13人の方から主に以下のようなご意見をいただきました。

### ① 普段の生活で不便に感じていること、困っていること

○看板や書類に振仮名や外国語表記がない。

○ゴミの出し方や収集について不便に感じることもある。

### ② 鎌ヶ谷市に住んで便利に感じること、良かったと感じること

○新鎌ヶ谷は病院・警察・市役所・大型店舗・駅が近くとても快適である。

○都心までの交通アクセスが良い。

※アンケート調査では、“外国人住民の方との交流のきっかけづくり”や“国際化の意識づくり”といった課題が浮かび上がってきました。また、市民意識調査では、“国際化の推進”については、「重要度が低く、満足度がやや低い」という結果、外国人住民懇話会では、看板標記やゴミの出し方等、普段の生活で不便に感じていることについて、ご意見をいただきました。本計画では、これらの課題を踏まえ、外国人の方にも暮らしやすい環境づくりを進めていくとともに、市の多文化共生社会を実現するための体制の整備を進めていきます。

7 さんこうしりょう  
参考資料

- 1) かまがやしだいにじたぶんかきょうせいすいしんけいかくけんとうけいか  
鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画検討経過・・・・・・・・・・資料1
- 2) がいこくじんじゅうみんこん わ かいがいよう  
外国人住民懇話会概要・・・・・・・・・・資料2
- だい かい へいせい ねん がつ か か かいさい  
第1回：平成26(2014)年6月3日(火)開催
- だい かい へいせい ねん がつ にち もく かいさい  
第2回：平成26(2014)年6月19日(木)開催
- 3) たぶんかきょうせいしゃかい こくさいか ふく すいしん あんけーと けっか  
「多文化共生社会(国際化を含む)の推進のためのアンケート」結果  
・・・・・・・・・・資料3
- じっしきかん へいせい ねん がつ にち げつ  
実施期間：平成25(2013)年12月2日(月)～  
へいせい ねん がつ にち きん  
平成26(2014)年1月10日(金)

## 鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画検討経過

## 資料 1

### ① 策定スケジュール

年 度	日 時	内 容
平成 25 年度	平成 25 年 12 月 2 日(月)～ 平成 26 年 1 月 10 日(金)	多文化共生社会(国際化を含む)の推進のためのアンケート実施
平成 26 年度	平成 26 年 6 月 3 日(火)	第 1 回外国人住民懇話会
	平成 26 年 6 月 19 日(木)	第 2 回外国人住民懇話会
	平成 26 年 7 月 15 日(火)	第 1 回策定委員会
	平成 26 年 10 月下旬～11 月初旬	庁議
	平成 26 年 11 月 11 日(火)	第 2 回策定委員会
	平成 26 年 12 月 1 日(月)	第 3 回策定委員会
	平成 26 年 12 月下旬～ 平成 27 年 1 月中旬	庁議
	平成 27 年 1 月下旬～2 月下旬	パブリックコメント
	平成 27 年 2 月下旬～3 月上旬	庁議
	平成 27 年 3 月中旬	計画決定

### ② 鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画策定委員会 開催状況

回数	開催日	テーマ
第 1 回	平成 26 年 7 月 15 日(火)	(1)委嘱状交付式 (2)委員長、副委員長の選出について (3)会議の公開について (4)会議録署名人の選出について (5)多文化共生社会(国際化を含む)の推進のためのアンケート結果報告について (6)意見交換 (7)今後の進め方について (8)その他
第 2 回	平成 26 年 11 月 11 日(火)	(1)「鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画(案)」に係る意見交換について (2)その他
第 3 回	平成 26 年 12 月 1 日(月)	(1)「鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画(案)」に係る意見交換について (2)その他

③ 鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画策定委員会 委員名簿

敬称略

	氏名	備考
1	中本 進一	学識経験者 (埼玉大学教授) ※H26年11月11日~H27年3月31日
2	品川 洋之助	委員長・公募委員 ※H26年11月11日~H27年3月31日
3	遠藤 尚子	団体推薦委員 (鎌ヶ谷市多文化共生推進連絡協議会)
4	太田 侑子	団体推薦委員 (鎌ヶ谷市多文化共生推進連絡協議会)
5	高橋 寛	団体推薦委員 (鎌ヶ谷市自治会連合協議会)
6	李 明今	公募委員 (外国人住民)
	辻村 聖子	委員長・学識経験者 (恵泉女学園大学講師) ※H26年7月15日~H26年10月7日



## 外国人住民懇話会概要

## 資料 2

## 第 1 回

- 1 日 時 平成26年6月3日（火）19時30分～21時
- 2 場 所 中央公民館学習室1
- 3 懇談者  
(鎌ヶ谷日本語サークル) 日本語教室外国人生徒約10名（アメリカ人、中国人、インドネシア人、フィリピン人など）  
(事務局) 3名
- 4 内 容  
○普段の生活で不便に感じていること、困っていることなど
  - ・看板が全て日本語表記で読めなかった。振り仮名や英語表記があるといい。
  - ・住所移動した際に全て書類が日本語表記で、記載例も日本語でわからなかった。受付の職員は親切だったが、日本語だけで説明された。記載例に英語表記のものがあるといい。
  - ・(これは鎌ヶ谷に限定したことではないが) 郵便局では振込がビザ許可後半年経過しないとできない。
  - ・婚姻届の際に名前の日本語表記がないため困った。
  - ・地震は不安を感じる。香港には地震がないためとても不安だった。夫から家から逃げることに、地震の備えを聞き防災袋の用意はした（避難所がどこかは知らなかった）。
  - ・買い物は特段不便ではないが、セルフレジのやり方が日本語だけなので、よくわからない。
  - ・北総線の運賃が高い(香港はどの鉄道会社も距離で一律料金なので意味がわからない)。また、バスが少なすぎる。(香港は一番の交通手段はバス)
  - ・看板が全て日本語表記で読めなかった。振仮名や英語表記があるといい。カタカナ(和製英語)はかえって読めない。
  - ・ゴミ出しは松戸市との境に住んでいてずっと松戸市指定の袋で出しており、誰からも指摘されなかった。つい最近違うことを知った(英語表記のあるものがあることを知らなかった)。
  - ・あらゆる申請などの書類が日本語表記しかなく、手伝ってくれる人がいない場合は大変だと思う。
  - ・外国ではWiFiが無料でどこでも使えるが、使えるところが少なく不便。
  - ・自転車を主な交通手段としているが、自転車屋が少ない。
  - ・子供が病気の時、夜間診療の小児科が少なく不便。
  - ・病院の看板が日本語表記なので、ローマ字表記やルビがあると良い。ピクトグラムなどのマークがあっても良い。
  - ・公園が少なく、子どもを遊ばせる場所が少ない。自転車の練習をする場所がない。
  - ・近所の回覧版が全て日本語表記なので困る。



- ・ゴミ出しの日が少ない。忘れていることもあるので、回収時に声を掛けてもらいたい。
  - ・保育園が少ない。 ・郵便局が早く閉まってしまうので困る。
  - ・小学校からの手紙の漢字にルビが振ってあると良い。
  - ・お祭り等のイベントのお知らせが欲しい。
- 鎌ヶ谷市に住んで便利に感じる事、良かったと感じることなど
- ・新鎌ヶ谷に住んでいて、病院・警察・市役所・大型店舗・駅が近くとても快適。
  - ・ゴミ出しは日本語のものしかないが、絵が描いてあるのでわかった（英語版があるのを知らなかった）。
  - ・夏祭りが楽しかった（屋台・浴衣・花火大会）。中国はお祭りや正月はとても賑やかに過ごす。日本はお祭りや正月は静かに過ごす印象があるが、夏祭りは良かった。
  - ・農家の家先に小さな販売所があって、とても新鮮に野菜などが買えるので面白い。
  - ・母国に比べて治安が良い。 ・病院で処方してもらう薬の質が良い。
  - ・近所の方が優しく、助け合いの心を持っている。
  - ・家に来た時は玄関までで、家の中まで入って来ない。マナーが良い。
  - ・新鎌ヶ谷駅から東京方面までのアクセスが良い。
- 日本の好きな文化など
- ・家電、アニメコスプレ、忍者、侍、相撲、生け花、茶道、歌舞伎、武道（空手）、演歌 etc.
- 訪れてみて、印象が良かったまち、住んでみたいまち
- ・浅草、上野、秋葉原、京都（インドネシアのバリ島に似ている）、市川、松戸 etc.
- その他（外国人住民が参加できるイベントがあったら参加したいか？）
- ・今のサークル（日本語サークル）のイベントも楽しいので、ぜひ参加したい。
  - ・日本文化の茶道などのイベントに参加したい。自国文化の紹介もしたい。

以上

## 第2回

- 1 日 時 平成26年6月19日（木）10時～12時
- 2 場 所 中央公民館学習室4
- 3 懇談者  
（鎌ヶ谷日本語サークル）日本語教室外国人生徒3名（中国人）  
（事務局）：2名
- 4 内 容

- 普段の生活で不便に感じていること、困っていることなど
- ・東京まで行くのに不便。 ・子ども（5才）が日本語を話せない。
  - ・外国人なので、学校でのいじめが心配。 ・物価が高い。
  - ・ゴミ出しの日が指定されている。 ・ゴミの収集が遅い。
  - ・日本語教室が少ない。 ・保育園が少ない。 ・公園等の子どもの遊び場が少ない。
  - ・公園にトイレが少ない。 ・北総鉄道が高すぎる。

- 鎌ヶ谷市に住んで便利に感じる事、良かったと感じることなど
  - ・家賃が安い、通勤に便利、地盤が固い、果物（梨）が美味しい。
- 日本の良い所、好きな文化など
  - ・子育てしやすい、環境が良い、食品の安全性が高い、人が親切で優しく礼儀正しい、中国から近く、文化が似ている、街が綺麗、行政手続きがスムーズ、銭湯が多い、農家の新鮮な野菜がすぐ手に入る、建築物（寺・庭）が素晴らしい、家電の性能が良い、着物・浴衣、花火。
- 訪れてみて、印象が良かったまち、住んでみたいまち
  - ・千葉ニュータウン、日光、九十九里、富士宮（富士山）。
- その他（参加しているイベント、参加したいイベント）
  - ・参加しているイベント（市民まつり、捕込まつり、紫陽花まつり、避難訓練）。
  - ・参加したいイベント（国際交流協会のパーティー等）。

以上

## 資料 3

### 「多文化共生社会（国際化を含む）の推進のためのアンケート」結果

#### 1 目的

平成20年度に策定した「鎌ヶ谷市多文化共生推進計画」について、平成26年度に計画期間が終了することから、平成27年度からの新たな計画策定の基礎資料として活用するため、市内の外国人を対象にアンケートを郵送により実施するもの。

#### 2 対象

- ①住民基本台帳に記載されている外国籍市民
- ②多文化共生推進連絡協議会の加盟団体が主催する事業に参加する外国人

#### 3 対象者

1,010名（宛先不明39名を除いた実質対象者：971名）

#### 4 回答人数

217名

#### 5 回答率

22.3%（宛先不明39名を除いた実質回答率）

#### 6 実施期間

平成25年12月2日（月）～平成26年1月10日（金）

#### 7 結果

次ページのとおり

## 多文化共生社会(国際化を含む)の推進のためのアンケート結果

### 問1-① 性別

	全体	男性	女性	無回答
%	100	35.0	63.6	1.4
度数	217	76	138	3

現計画策定時：回答者の性別は、「女性」が65.3%と全体の6割強。「男性」は34.1%。

### 問1-② 年齢

	全体	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
%	100	0	9.7	33.6	31.3	16.1	6.5	0.9	1.8
度数	217	0	21	73	68	35	14	2	4

現計画策定時：回答者の年齢は、「30～39歳」が38.2%で最も高く、次いで「40～49歳」が30.6%。以下、「20～29歳」(13.5%)、「50～59歳」(10.6%)、「60～69歳」(2.9%)、「70歳以上」(2.4%)、「20歳未満」(1.8%)。

### 問1-③ 国籍

	全体	無回答	その他	ブラジル	アメリカ	ペルー	タイ	韓国・朝鮮	フィリピン	中国・台湾
%	100	0.9	27.0	0.9	1.4	3.3	3.7	15.3	15.3	33.0
度数	215	2	58	2	3	7	8	33	33	71

#### (その他内訳)

	ネパール	パキスタン	スリランカ	バングラディッシュ	イラン	ベトナム	シンガポール	インド	インドネシア	モンゴル
度数	11	7	5	7	3	3	3	3	3	3
	イギリス	カナダ	ミャンマー	ジャマイカ	モーリシャス	ロシア	ハンガリー			
度数	3	2	1	1	1	1	1			

現計画策定時：国籍については、「中国・台湾」が28.8%で最も高く、これに「フィリピン」が18.8%、「韓国・朝鮮」が12.4%と続いている。以下、「タイ」(7.6%)、「ペルー」(4.1%)、「ブラジル」(3.5%)、「スリランカ」(3.5%)、「バングラディッシュ」(2.4%)、「イラン」(2.4%)、「アメリカ」(2.4%)、「インドネシア」(2.4%)、「イギリス」(1.8%)、「パキスタン」(1.2%)、「インド」(0.6%)。

### 問1-④ 言語

	全体	中国語	タガログ語	韓国語・朝鮮語	タイ語	ポルトガル語	英語	日本語	その他	無回答
%	100	31.4	15.0	12.6	3.4	1.9	29.5	84.5	29.0	1.9
度数	433	65	31	26	7	4	61	175	60	4

#### (その他内訳)

	ネパール語	ウルドゥー語	ヒンディー語	モンゴル語	スペイン語	シハラ語	台湾語	ビサヤ語	ベルシャ語	ベトナム語
度数	10	5	5	4	6	3	3	3	2	2
	バングラディッシュ語	インドネシア語	パキスタン語	マライ語	カチン語	ベンガル語	スリランカ語	福建語	広東語	オランダ語
度数	4	2	2	2	1	1	1	1	1	1
	フランス語	ハンガリー語	ミャンマー語	イラン語	ペルー語					
度数	1	1	1	1	1					

現計画策定時：使用言語については、「日本語」が77.6%で最も高くなっている。これに「中国語」(25.9%)、「タガログ語」(18.8%)、「英語」(17.6%)が続いている。以下、「韓国・朝鮮語」(10.0%)、「スペイン語」(4.7%)、「ポルトガル語」(4.1%)。

## 問1-⑤ 日本の居住年数

	全体	0～4	5～9	10～19	20年 以上	無回答
%	100	11.6	24.2	35.7	31.9	1.4
度数	217	24	50	74	66	3

現計画策定時：日本の居住年数については、「10～19年」が33.5%で最も高く、次いで「1～4年」(28.2%)、「5～9年」(22.9%)、「20年以上」(11.8%)。

## 問1-⑥ 居住する家の形態

	全体	持ち家 所有マンション	賃貸	社宅・寮	公営住宅	その他	無回答
%	100	60.4	32.4	7.7	1.9	0.5	1.9
度数	217	125	67	16	4	1	4

現計画策定時：居住形態については、「持ち家または所有するマンション等」が58.2%で最も高く、次いで「賃貸住宅」が31.2%。以下、「社宅や寮」(2.4%)、「公営住宅」(1.8%)。

## 問1-⑦ 今後も鎌ヶ谷市に住む予定

	全体	住み続けたい	決めていない	勉強や仕事 が終わるまで	短期(3年以 内)	その他	無回答
%	100	63.8	31.9	2.9	4.3	0.5	1.4
度数	217	132	66	6	9	1	3

現計画策定時：鎌ヶ谷市への居住予定年数については、「住み続けたい」が58.8%と最も高く、全体の6割。一方、「決めていない」が35.8%。以下、「短期」(2.9%)、「勉強や仕事が終わるまで」(1.8%)。

## 問2-① 鎌ヶ谷市に住むきっかけ

	全体	生まれたときから	職場や学校 が近い	交通の便が 良い	家族や知り 合いが住ん でいる	家賃が安い	その他	無回答
%	100	2.9	21.3	19.3	35.3	15.9	26.6	2.4
度数	256	6	44	40	73	33	55	5

現計画策定時：鎌ヶ谷市に住むきっかけについては、「結婚相手が住んでいたから」が42.9%で最も高い。これに、「家族が住んでいたから」(20.6%)、「都内に通うのに便利だから」(11.8%)、「家賃が安かったから」(11.2%)、「職場や学校が近いから」(10.6%)、「知り合いがいたから」(5.3%)が続いている。また、「生まれたときから住んでいる」は0.0%。

## 問2-② 日本語の能力

	全体	意見を発 表できる	日常 会話	単語が 話せる	ほとんど 話せない	無回答
%	100	53.1	40.6	5.8	2.9	2.4
度数	217	110	84	12	6	5

現計画策定時：日本語を話すレベルについては、「日常会話ができる」が44.7%と最も高く、「自分の意見を発表できる」(42.7%)を合わせると、約9割が日本語を話せる。

## 問2-③ 生活上の不便

	全体	乳幼児の 子育て	子どもの 教育	自分や家 族の病気	言葉がわ からない	災害時の 対応	生活習慣	地域の ルール	日本人と の交流少	仕事の 確保	老後の 生活	その他	無回答
%	100	15.0	27.1	25.6	13.5	21.7	14.0	10.6	16.9	32.4	42.5	8.7	0.0
度数	366	31	56	53	28	45	29	22	35	67	88	18	0

現計画策定時：設問なし。

## 問2-④(問2-③で「乳幼児の子育て」と回答) 乳幼児の子育てでの不安や不便

	全体	遊び場が 無い	相談 できる場	病気の 対応	保育・幼 稚園入園	必要な情 報が無い	その他	無回答
%	100	46.7	30.0	33.3	63.3	40.0	33.3	40.0
度数	86	14	9	10	19	12	10	12

現計画策定時：設問なし。

## 問2-⑤(問2-③で「子供の教育」と回答) 子どもの教育での心配事

	全体	授業につ いていけるか	友人との 関係	先生との 関係	進学・進路	教育費	母国語・ 文化	その他	無回答
%	100	35.2	51.9	22.2	57.4	44.4	57.4	22.2	14.8
度数	165	19	28	12	31	24	31	12	8

現計画策定時：教育で心配なことについては、「特になし」と「友人との関係」がどちらも29.9%で最も高く、これに「教育費のこと」が28.6%で続いている。以下、「進学や進路のこと」(23.4%)、「母国の言葉や文化を教えられない」(18.2%)、「授業についていけるか」(11.7%)、「先生との関係」(9.1%)。

## 問2-⑥ 生活上必要な情報

	全体	災害 対策	病気・ 事故	地域 ルール	相談 窓口	交通	税金	子育て	引越 し	保険 年金	介護等 福祉	地域活 動・講座	市の文 化	入国・ 出国	姉妹都 市	特に無 い	その他	無回答
%	100	40.6	35.3	11.1	21.7	7.2	29.0	21.3	3.9	42.5	15.9	16.4	15.5	20.8	5.8	17.4	4.3	1.9
度数	440	84	73	23	45	15	60	44	8	88	33	34	32	43	12	36	9	4

現計画策定時：生活をするうえで必要な情報については、「病気や事故のときの連絡先や対処に関する情報」が39.4%と最も高く、これに「避難所などの災害対策についての情報」(34.7%)、「保険や年金に関する情報」(24.7%)と続いている。以下、「出産や教育など子育てに関する情報」(24.1%)、「税金の情報」(20.6%)、「市役所の相談窓口の情報」(18.2%)、「特になし」(18.2%)、「入国や出国に関する手続の情報」(15.3%)、「ゴミ出しなど、地域のルールについての情報」(13.5%)、「地域の活動や講座の情報」(13.5%)、「鎌ヶ谷市の文化に関する情報」(12.9%)、「電車やバスなど交通に関する情報」(8.8%)、「お年寄りの介護など福祉に関する情報」(8.8%)、「引越しのときの手続の情報」(3.5%)。

## 問2-⑦ 多文化共生推進センターに望むこと

	全体	相談場所	交流 イベント	仕事紹介	日本語 学習	外国人参 加イベント	その他	無回答
%	100	46.4	35.7	42.0	32.4	35.7	7.7	9.2
度数	433	96	74	87	67	74	16	19

現計画策定時：設問なし。

## 問2-⑧ 市の情報の入手希望

	全体	広報紙	HP	Eメール	SNS	駅や スーパー	その他	無回答
%	100	45.9	30.4	27.1	20.3	30.9	6.3	9.7
度数	353	95	63	56	42	64	13	20

現計画策定時：設問なし。

## 問3 日本人や在住外国人との交流希望

	全体	もっと親しく	地域行事参加	日本の文化や習慣の教示	自国文化の紹介	ボランティア参加	スポーツ交流	外国人のホームドキュメント	特に交流したくない	その他	無回答
%	100	40.6	15.0	30.9	14.5	18.8	12.6	10.1	14.5	4.8	9.7
度数	335	84	31	64	30	39	26	21	30	10	20

現計画策定時：近所の日本人としたい交流内容については、「近所の人ともっと親しく付き合いたい」が44.7%で最も高くなっている。これに「日本の文化や習慣などを教えてもらいたい」(27.1%)、「地域の行事に参加したい」(19.4%)、「自分の国の文化を紹介したい」(18.8%)、「ボランティア活動に参加したい」(17.1%)、「交流したくない」(7.1%)が続いている。

## 問4 災害などの緊急時の準備

	全体	必要な食料と道具をまとめている	待ち合わせ場所を決めている	避難所を確認している	避難訓練に参加	特に何もしていない	無回答
%	100	25.1	25.6	27.1	6.3	44.9	5.3
度数	278	52	53	56	13	93	11

現計画策定時：地震などの災害に備えた準備については、「特に何もしていない」が60.0%と最も高くなっている。以下、「自分の住む地域の避難所を確認している」(17.1%)、「避難時に必要な食料や道具をまとめている」(14.7%)、「家族などで避難するときの待ち合わせ場所を決めている」(14.7%)、「避難訓練に参加した」(1.2%)の順。

